

大型国際会議続々決定!

「2013年国際化学療法会議」 横浜開催決定!

平成21年9月12日、アメリカ・サンフランシスコ市にて開催された国際化学療法学会 (ISC) 理事会において、「2013年 第28回国際化学療法会議」の横浜開催が正式に決定しました。

選出にあたっては、立候補していた台湾と横浜が提出したビッドペーパー及びプレゼンテーションに基づき、理事会において長時間にわたる議論が行われた末、横浜市が開催地として決定されました。

今回は、国際化学療法学会 前副理事長であり、アジア太平洋事務局長である産業医科大学 松本 哲朗教授を中心に、国土交通省観光庁、日本政府観光局、横浜市、財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、パシフィコ横浜による連携協力体制のもとで誘致に成功しました。

2013年の横浜開催は、1969年の東京、1985年の京都に続く3回目であり、化学療法の研究及び治療において先進的な役割を果たす日本における開催は、今後の日本のみならず、アジア諸国の化学療法分野の発展に大きく寄与するものと考えられます。

横浜では、「国際コンベンション都市・横浜」の実現に向け、国際会議の誘致を連続して成功させており、今回の誘致決定も、オール横浜としての取り組みが実ったものであるということが出来ます。

名 称 : 2013年 第28回国際化学療法会議 (ICC 2013)

会 期 : 2013年6月中旬 (5日間)

会 場 : パシフィコ横浜

参加者数: 約 5,000人 (予定)

主 催 : 国際化学療法学会 (International Society of Chemotherapy for
Infection and Cancer)
社団法人日本化学療法学会



2013年国際化学療法会議とは？

「化学療法学」とは主に、細菌、ウイルス、真菌などの病原微生物に対する薬物治療および抗がん剤を用いたがんに対する薬物治療を扱う学問です。

国際化学療法会議とは、国際化学療法学会(ISC)が、化学療法の進展・普及と研究開発を目的として主催する学会であり、日本での開催は東京、京都に次ぎ、3度目になります。

2013年に横浜で開催される会議は、ISC及び日本化学療法学会が主催し、日本感染症学会、日本臨床微生物学会、日本環境感染学会、日本性感染症学会、日本外科感染症学会の5学会が後援することが決定しているため、より幅広い視点に立った研究について議論が行われることとなります。なお、本国際学会は、国内学会である第61回日本化学療法学会総会と合同で行われるため、横浜へより多くの来訪者が見込まれます。

化学療法研究における日本の貢献

1979年に設立された化学療法の発展に寄与した研究者に贈られるISC賞は、1989年から故・梅沢浜夫氏の功績をたたえ、ハマオ・ウメザワ記念賞と名称変更されました。また、1995年には、泌尿器系の研究で功績のあった研究者に贈られるマサアキ・オオコシ賞も設立され、いずれも日本人の名前が冠されている国際賞として、国際化学療法会議の場で贈られています。



【参考資料】

横浜のコンベンション誘致・開催実績

横浜では毎年、パシフィコ横浜を中心に国内外のコンベンションが約600件開催されています(2007年開催件数645件)。

特に、中・大型国際コンベンションの開催件数は、最新の2007年実績では、国内では東京(63件)、京都(39件)について第3位(37件)となっています。*注1

また、全国の会場別で国際コンベンションを見ると、開催件数(89件)・外国人参加者数(10,954人)・参加者総数(166,768人)の主要3項目において、パシフィコ横浜が第一位となっています。

*注1 2007年開催件数であり、日本政府観光局(JNTO)発行の「2007年コンベンション統計」における、「国内都市別『中・大型』国際コンベンション(外国人参加者数50人以上、総参加者数300人以上)の開催件数一覧表」に基づく。

最近横浜開催が決定した大型国際コンベンション

2012年 9月	第4回世界創傷治癒学会連合会議	5,000名規模
2012年10月	第14回国際疼痛学会会議	4,000名規模
2014年 6月	第16回世界作業療法士会議	5,000名規模
2014年 7月	第18回国際社会学会世界社会学会議	5,000名規模